HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北大演習林における公務災害の動向 ： 昭和54年度-昭和63年度
Author(s)	松田, 彊
Citation	北海道大学演習林試験年報, 7, 59-63
Issue Date	1990-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/72824
Type	departmental bulletin paper
File Information	1988_2A-10.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

II A—10　北大演習林における公務災害の動向
昭和54年度～昭和63年度

雨竜地方演習林　松　田　　彊

1．は　じ　め　に

山の仕事は様々な危険がつきまとう。近年になって法律や就労環境の整備は行われているが、依然として林業における労働災害の発生率は他産業に比べても高い。

北大演習林においても多くの事故が起きている。以下に最近10年間に報告された公務災害の内容を整理してみた。災害防止対策の一助となれば幸いである。

2．年度別にみた発生件数

図—1に年度別、地方林別（札幌本部を含む）の発生件数を示した。10年間の総数は99件で、残念ながら減少傾向にあるとは言い難い。ちなみに男女の比率は75：24である。

地方林別の発生件数にかなりの差がみられる。これは様々な要因、例えば人数、地形や気象環境、仕事の内容や、公務災害として報告するか否かなどによるものと思われる。いずれにしても、件数の多い所では充分な検討をすべきであろう。もちろん、少ないからといって安んじてはならない。

3．職種別にみた被災件数

図—2を参照して頂きたい。当然のごとく、山で働く時間の長い技能補佐員の件数が多い。

4．年齢別にみた被災件数

図—3を参照して頂きたい。10年間を通した年齢構成は調べていない。従って明確なことは言えないが、40・50代の構成人員の多いことが、この代の発生率を高くしているのだろう。

5．傷　害　の　大　小

図—4に休業日数別に件数を示した。大半が10日以内の比較的軽い事故である。しかし、死亡事故も一件あり、重傷の件数も少なくない。

6．傷病名と被災部位

図—5、6を参照して頂きたい。病名は診断書の記載を整理したものである。同一事故で何箇所にも傷害を受けるので、総数は発生件数より多くなっている。骨折が多いことに驚かされる。山の仕事が如何に危険かを示しているのだろう。被災部位は身体全般に分布しているが、頭部や両手と、首、腰、肘、膝などの関節部が多い。

7．作業種による件数

図—7は具体的な作業毎に件数を示した。やはり伐倒、玉切りなどの素材生産現場の事故が多く、傷害度も大きくなる。

8. 加　害　物

図－8は傷害をもたらした直接的な「物」と、発生件数の関係を表している。一位の足場は地形や障害物を意味している。死亡事故はコンクリート管によるものであるが、ブルドーザーとの組合せで発生している。このように、殆どの事故が複合的なものであろう。当然のことながら、重量物が関係すると傷害度も大きくなる。なお、虫やウルシによる被害は、報告されない軽度のものが多数あるに違いない。

9. 事故発生の季節と時間

図－9には月別、図－10には一日の時間帯による発生件数を示した。月別にみると、必ずしも働く人の多い夏期に事故が多いわけではない。作業の量ではなく、内容の問題なのであろうか。

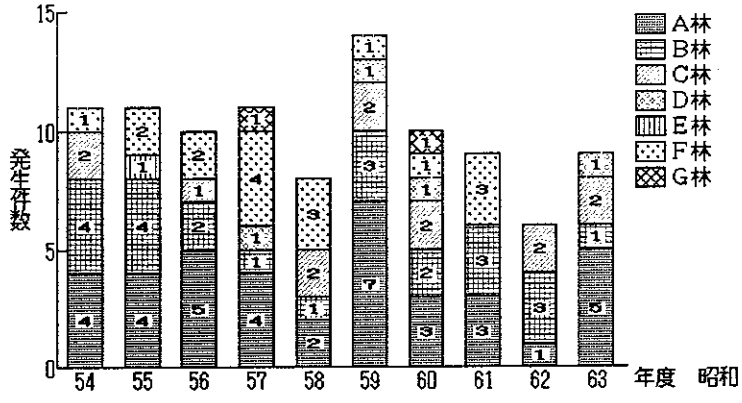
一日の時間帯別にみると、午後より午前中に件数が多いと言える。特に10時から12時までの2時間に全体の42％が集中している。作業内容との関連は摑めなかったが、一体この原因は何であろうか。

10. お　わ　り　に

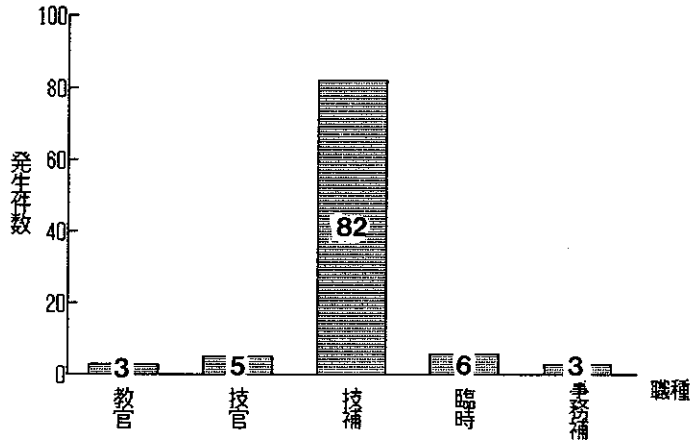
最近10年間の公務災害を整理してみると、改めて件数の多さと内容が多岐に渡ることを知らされた。そして、報告されていない「チョットシタ」ことや「アブナイ」ことを含めれば、さらにその数は大きくなるだろう。

事故を起こしたい人はいない。事故を起こしてはならない。それでも事故は発生する。だからこそ我々は真剣に考える必要がある。その為にも周囲の事故に慣れてはいけないし、少なくとも同じ過ちを繰り返してはならない。事故を他人事と済ますことが最も危険な考えであろう。職場の安全確保は、構成員全体の責任であることを再確認するべきである。

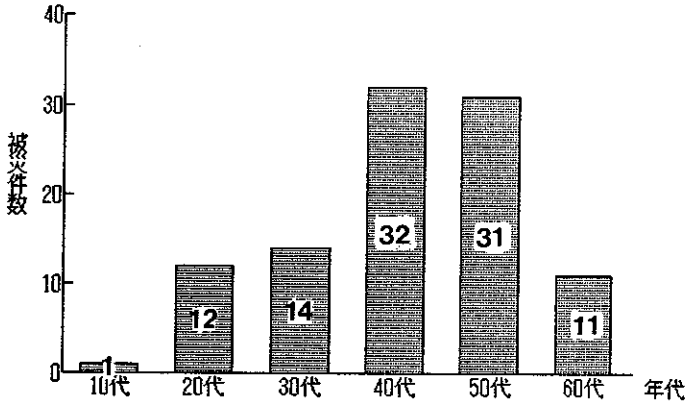
この報告では簡単な傾向を示すにとどまっている。もっと多角的な分析が必要であろう。従って対策までは論ずることは出来なかった。しかし、各地方林の持つ様々な条件の中で、事故の特徴もまた伺うことが出来る。今後これらを含め、個人でそして組織での検討が望まれる。如何に仕事の量と質が優れていても、事故が起きては何の意味も無くなるのだから。



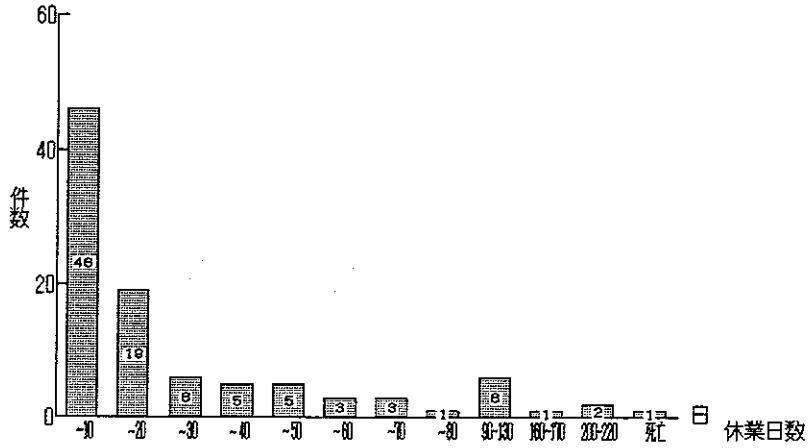
図－1　年度別・林別発生件数



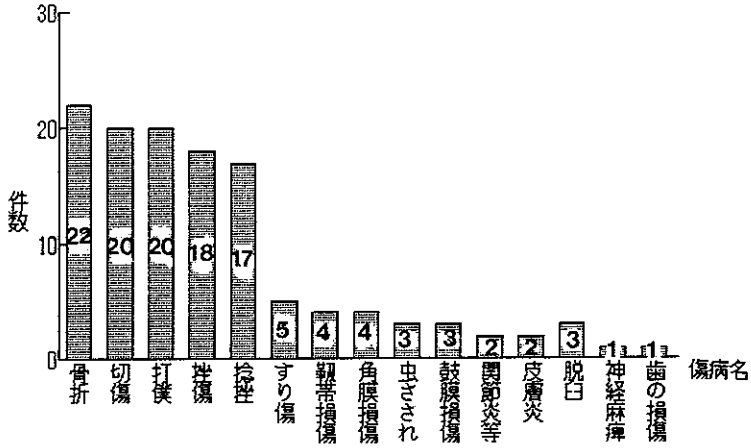
図－２　職種別被災件数



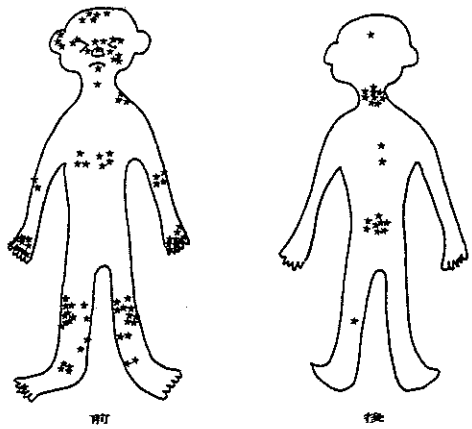
図－３　年齢別被災件数



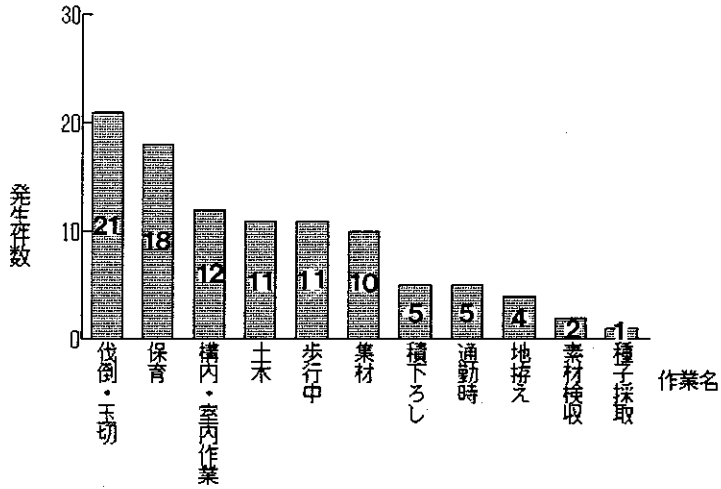
図－４　休業日数別事故件数



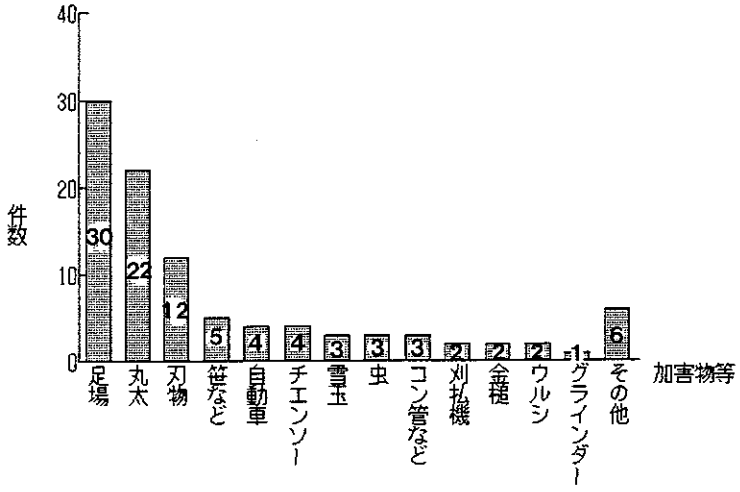
図－5　傷病名別件数



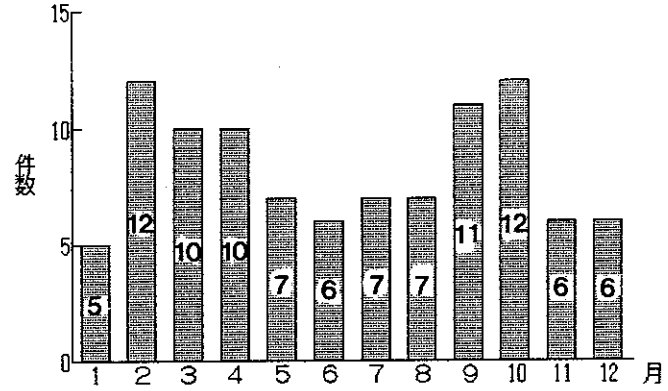
図－6　被災部位



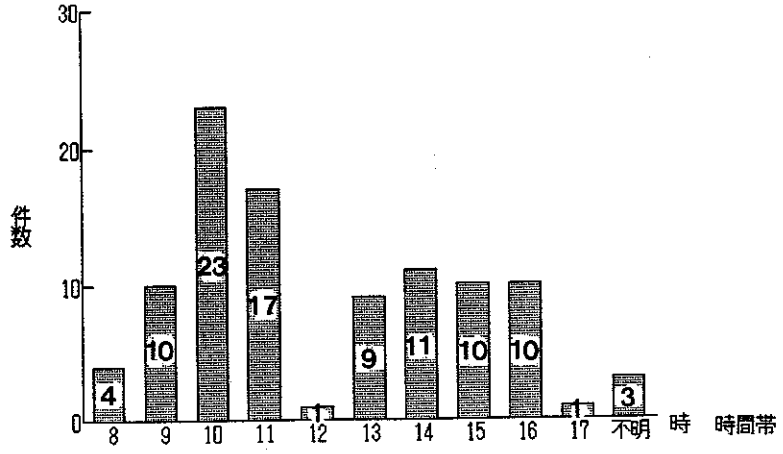
図－7　作業別発生件数



図－8　直接の加害物と発生件数



図－9　月別発生件数



図－10　時間別発生件数